Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

Kodak Gray Scale

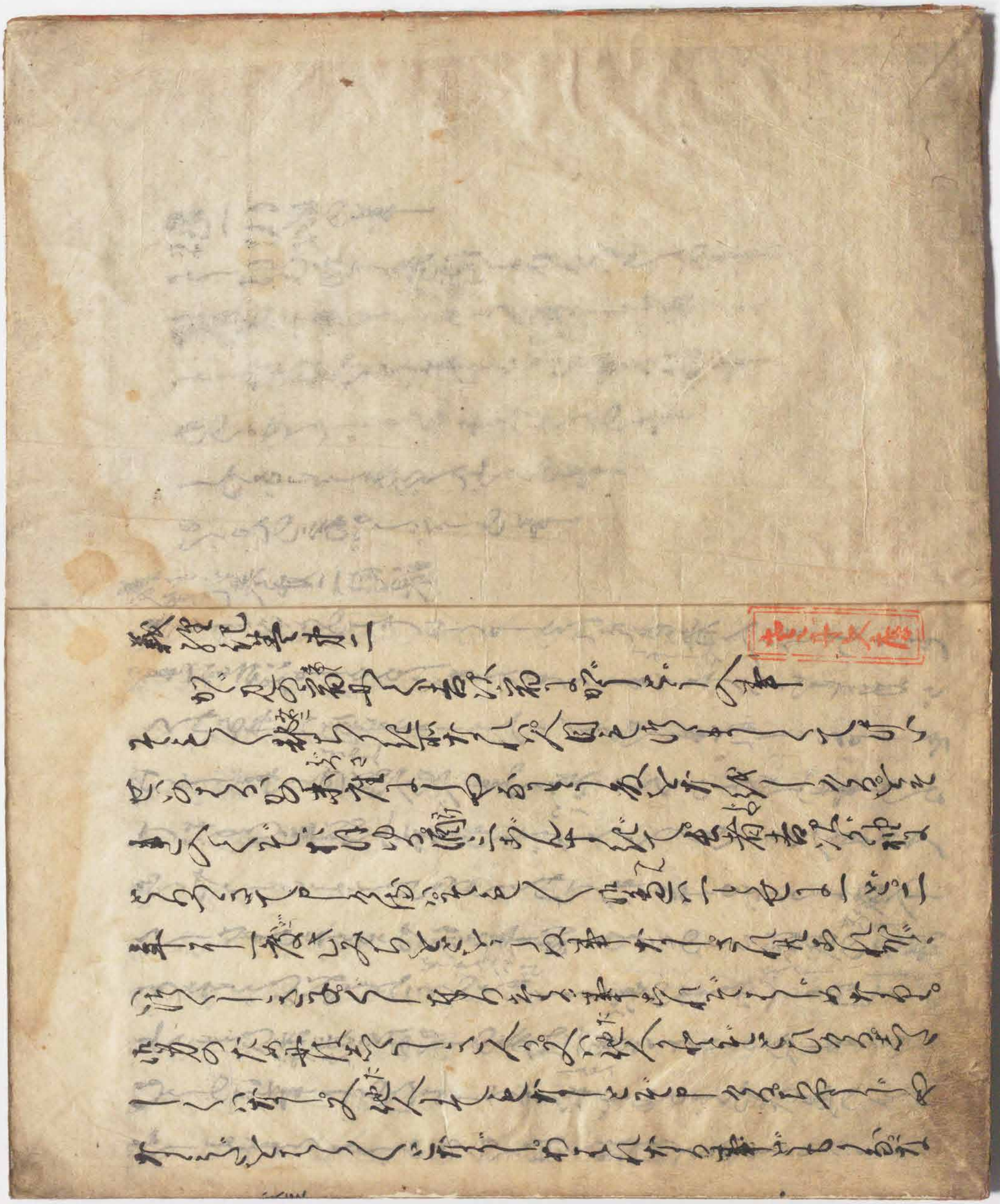
C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

義理記巻第二目録

ひぐらしの事
しやうもう会々ぐんじくの事
あのぐぜんじふれうりんの事
ちうたいのみさで木ぐちうち屋さ話事
伊勢の三郎ちくめくの長下小成ちり
ちはひ初て秀衡よりれうりんの事
鬼一法眼の事

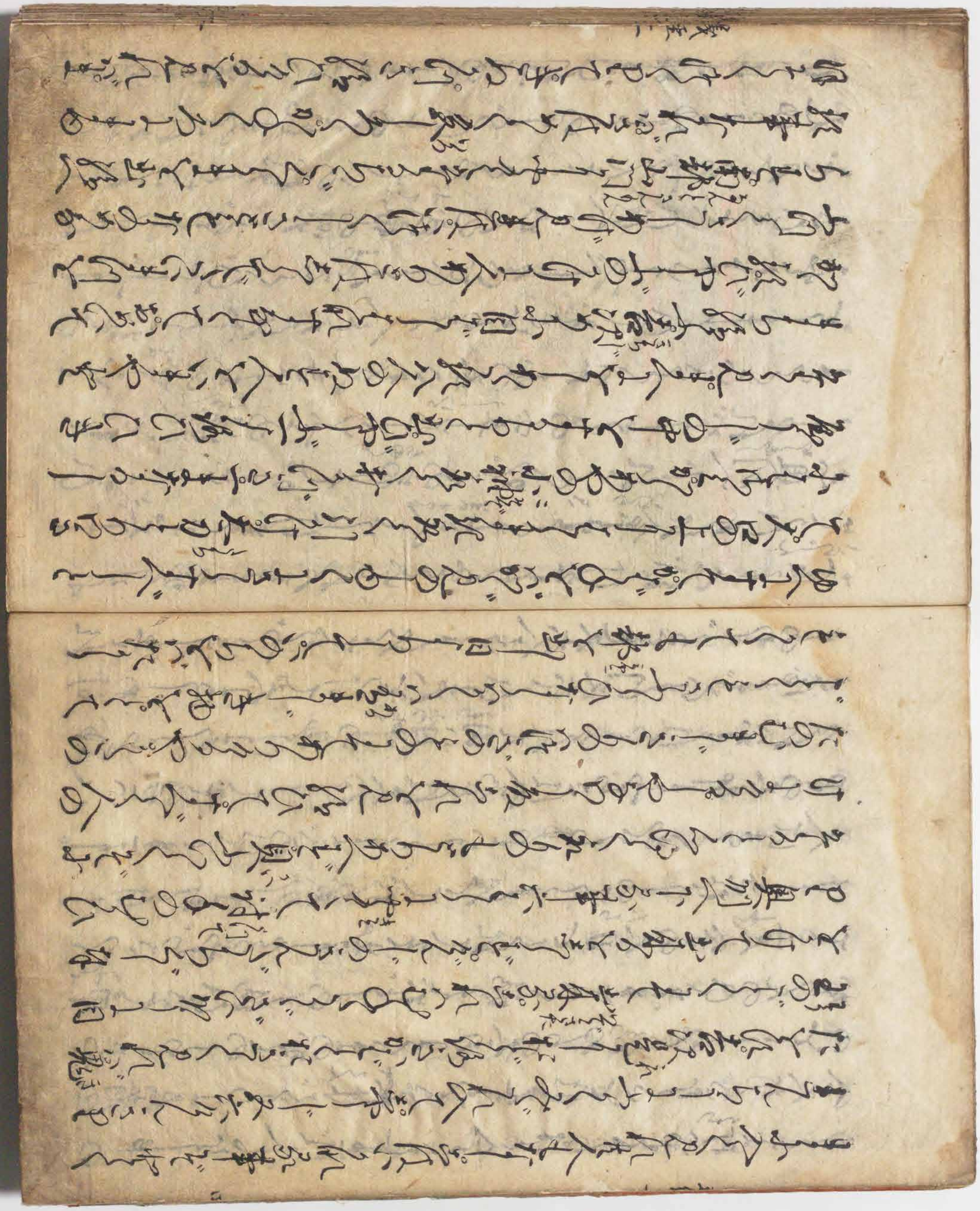


みつよしくらびやうえのかみとぞうしん。そ
もそのはしのこのうちてたがゆるどやぶしあのいら
ふるまひ家族さぶかしの家ぬ二男ことなりあるーとも
をそうびはもねとのうれ。しるのすあとりけても
ぐーなりそうや。保元年治ちこのうち源氏のは孫
らやうーこようちをめうれてたしすうぞうー成人
てたりひ三位ふ事わるぐーくーあちんなりて
ワーあるせはへびべよみく岩よくちとりう事わる。
くれを井い国ちうーくーもかーまれーとーを
まーは吉沢ーくうたなんぞうまこていらとうが
ちうーさとのしそいとーくれた長者人いなふとと

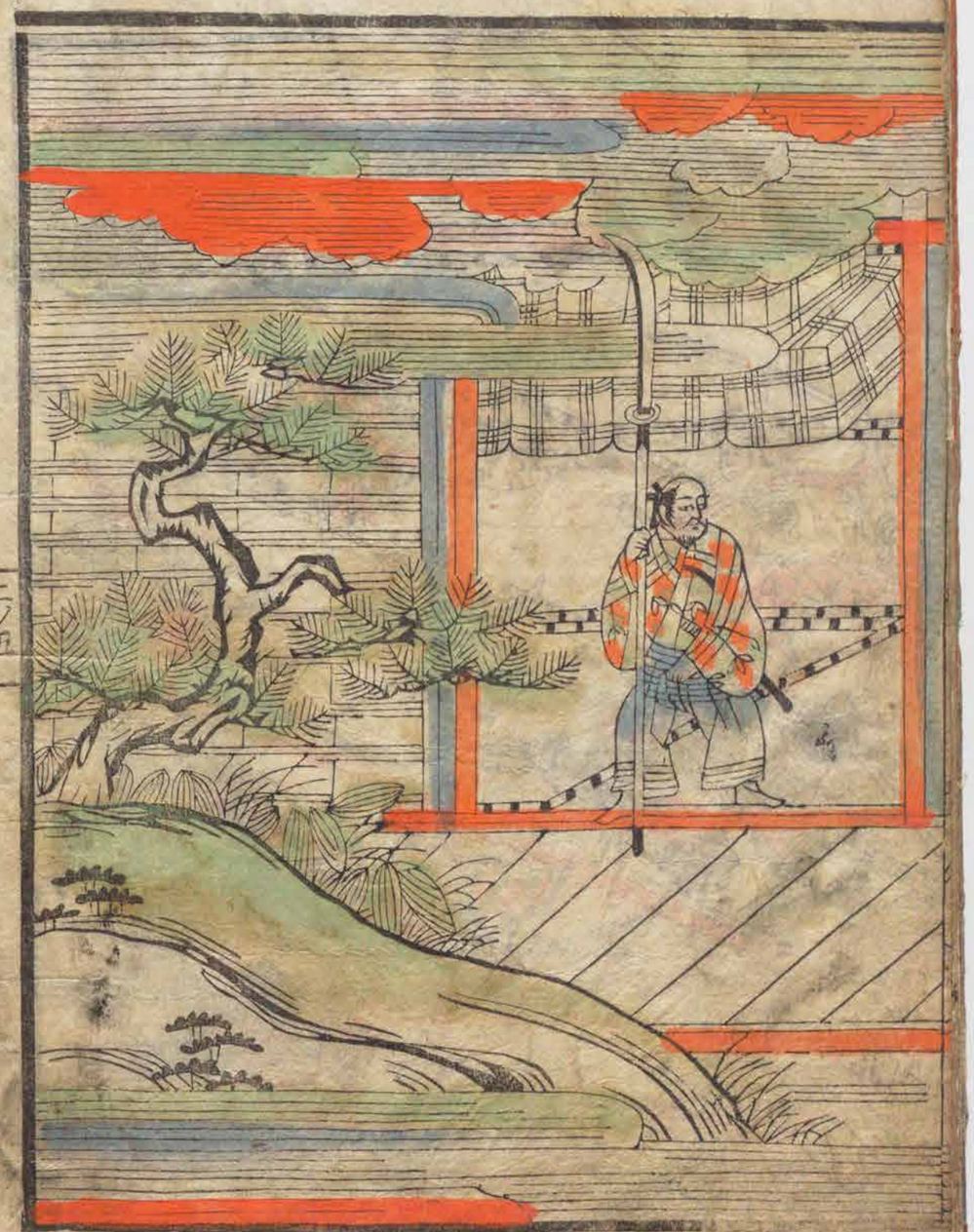
いくーとくーだ数と三てたされき人の神とひ。さかこの
だ数ーりなぬーなりう酒とすくめくれ山ーくれいうが
うくへでへなるー吉沢もうりーよるひ山ーくうーそのれか
びこの家ーりーくうこの事ーそうくうーそのの年いせ中
きくんかりそれぬ出羽の国ーりやゆせんとこーの大ねよ
ゆりの太郎とーこのとぬ松の国ーるねとそうくびさ
のこりの住へうちさしのへ道とーとのこ人そうーひ家
ぬく国ーりてさんのぞんのうこのる息太郎吉ひ
よかーりのを二ーするがの国ーりたりの十郎上野ーこよ
とのの源へうぬのこのとーもそぬまーもやゆるぬと人ひ。
との者二十ふ人をれせい七十人ぬまくぞうくぶう

しすべしとおよがんん山家(やま)にかくれ井そうろう漁人(ぎょじん)わ
ざとひたしてつくってそうろうけのまをくこ
ろこうり上ゆ蓑もすぼ秋風そうべ小屋(こや)へかゆ屋へ
ひらんとくこうとくこうとくこうとくこうとそうろうて
のぼりそうろうその秋かぜ月のしのしもの者(もの)の形(かた)とかすべて
ゆくそうろうゆゆの太郎ゆづさとこうろうゆやこと
のうりぬとりちこしひ出者(でもの)のりこうそうろうい
すべさたいひそれぶづさこへ道ちゆんかとわを
さかうとそしてゆやけがわさなくぬとりてわこ
うれこうけのまをくことそれこくもうろうゆきや

うのわづることを又六人そうそうておづうそれ
くぬまぐのまけ又六しひ人とうけてえこうわげ
それぶかうたくそれ月いけ中のあこうゆらへゆ
ゆの太郎ちづさたへうとたたたてそのせいハ
人ぬまくもうちゆゆいうりうりうごのひてきう。
りうぎたしのそうまれくぬうてゆうあがこれけー
てゆ三尺又寸の太刀とそれてそ出うそうゆづさて
かうんのひくてまこよゆ流うそなどーのこ流ひさそ甲
のとそーしゆゆ流りの太刀ゆくまのかこのーゆさや
へゆ人なうごなることはえうこうさ者(もの)の
りこよけいゆそうゆほくへくゆ見まぬ人もなー中の



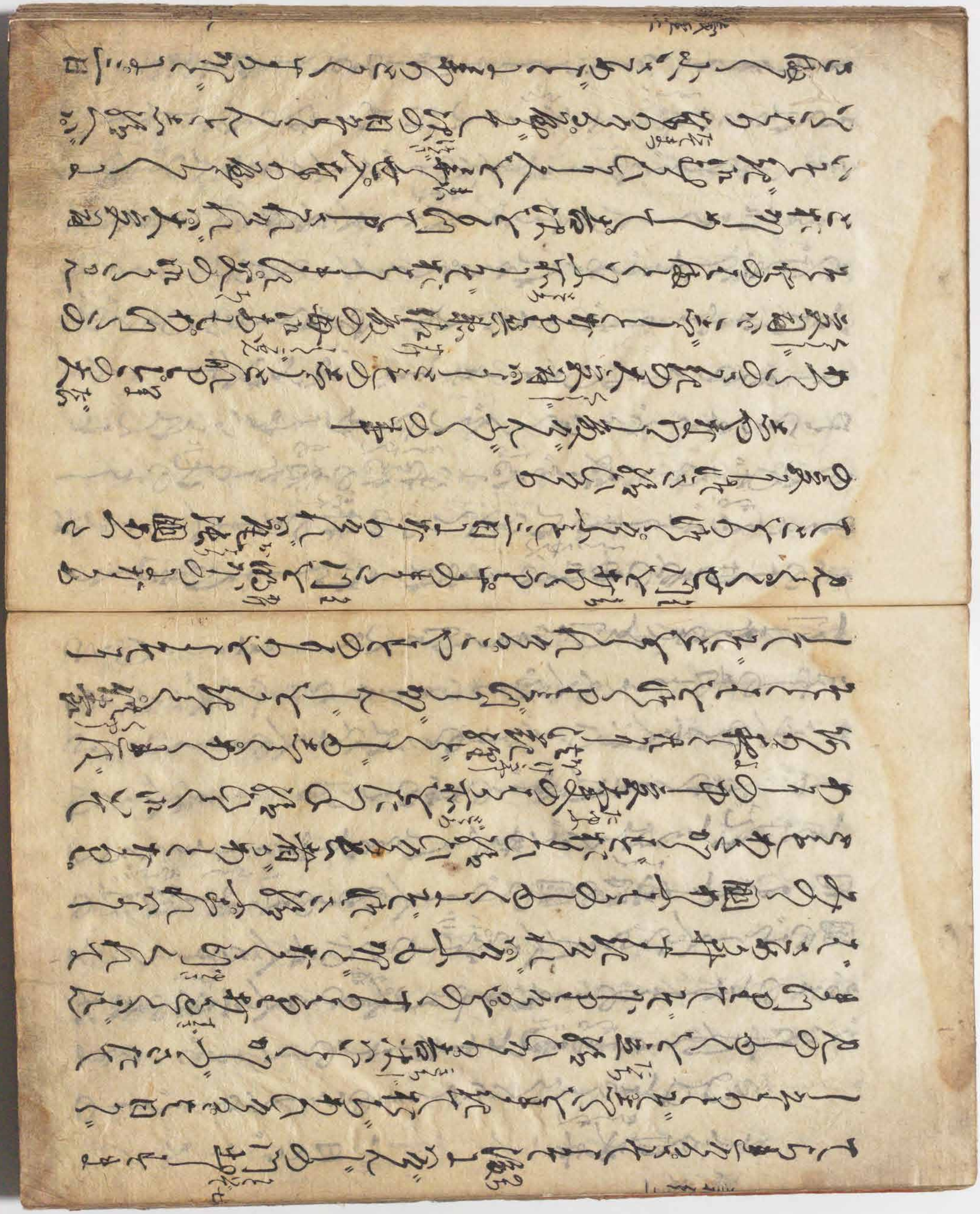
ぢうにんよ娘うぢひれふるのべーまとへ。極ごくれて
見ゆるまゆきこのぢうぐひしものそれよみくれろへく
ぞ見てこのぢんぐんてーくてしいの代がらせびあり
さひさとしひぢべーぢんの武帝の河なーぢとうぢん
をもうこうべーぢくせいしんえくびやーぢり
とーまとんてぞとりろ人をなれやーよたもい
きくぢさくいなーふのあさわろへきぢすあの世よりて
しくれぢーとものみぢ手ぢあとしいとの漢数とたて
志奥がへーぢれとくかぢんの前してがーどーよわひ
てうひなれ金ーぢくしまえこーぢけなーもたーぢ
ぢうーぢんぢけそりろ



うくもかくてものぐるまりとかりり。
太刀とわさくあせいの中へたもつへ入ぬ。八人いたちへさろ
こちらゆとの太郎あれとたんくぶりやなりひくれど。
世ゑ吹かちこのしてそろろ物とくさうんくふ
こさわ一太刀よりたりひくりひくむど
とけ。大のれこの太刀の千ぬのびそろ天井のうちよ
太刀うちぬきひさうるをぶ太刀とりく
ちやとうけしゆんでのうひなる神とそへくゆ
どうちたこぬとと太刀よとびけれとあさへ
道いたれとんくわ。こうりそうとひくそて。
大太刀うちうくちとぬこれよりとわひ

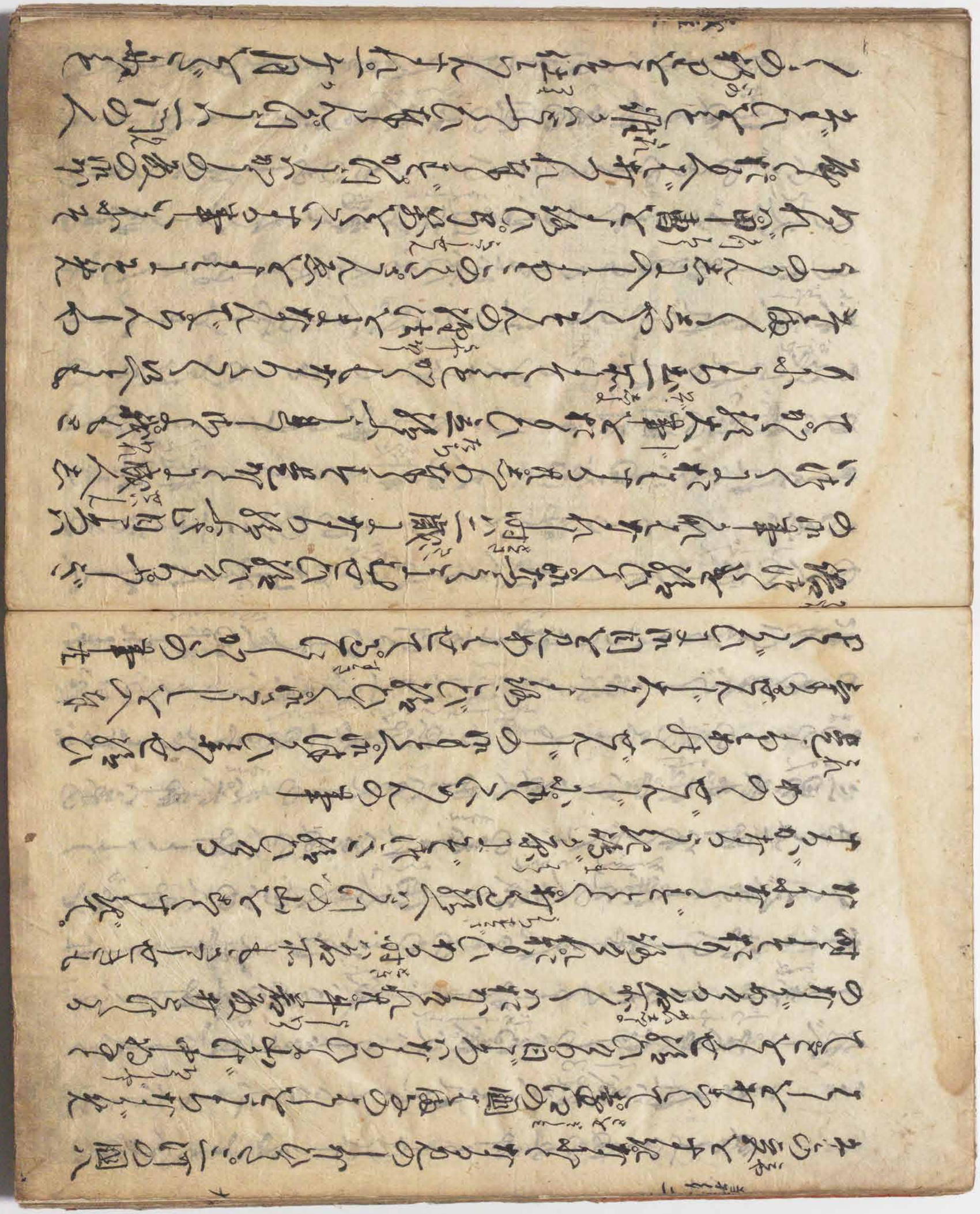
てさんくふさうわひ給ふ。ゆゝしさいへゝ乃ちから
なりふさうてけさうもとをさうしゝとゝもかつらのふ
たかいやゝゆゝしきなれば。ちから。のえぼんぐこさうを
ぞ。ぐくさうれくわ。ぐ。くたかちからとねんこうるとねさ
をゝてさせひこうつけ給へ。甲のまけさしつけ
らうけてこうつけ給ひくうり。吉次いとものくひてし
ゐれとんくぐたてゝ給へこさとのく。高ゝひ。れ。いうり
ゝれときてこかしをれかしめうりんこれりひ。ふさ
ひくるちやうぞへゝとくへくまれとりてこさうて
ぐうときみぐこたかとねきてくさのけてそくうれ
うちうちたゝゆたくしゝひ出くゝしやかつりをと

一門ゝなりてとりけくけさんくよそてうひくう
こゝゆゝの者ゝとゝ人ゝ。ゝよいゝゝこうゝ。ゝ二人ゝひとひ
て少へゆく。一人ゝひゝ。かとゝのこれゝと人のくゝどゝかち
うせくうゝ。ゝ。ゝ。



もてぞわたらせおはしまし給ひ、やがて吉次と御
らんぜられ給ひ、童にしてくだらんと思し召しけるが、かねて
さてくだりてやとぞ思ひ給ふ。吉次申しけるは、
よもぎたるとうしの山へとぞ落ちる。大文字ながら、なほ
わが君とぞめされ給ふ。ひとりぐるにてひとりぐるにて
とぞなれ。おとどのとぞ。こうしんの時、やまとといひしく。男
子なりとかしなし。見て名をかへずして下
りつさせたまふ。くだんぐしませ、これをんと
らんぐしひしい物ぐるしいわ。の者なり。北のそ
ひとりぐるぞうしいれいわ。てこの山の神のれまへ。志しも兵
衛の十郎の母あもれよりまれ。見て

れりひとりぐるんとて結を立ててさいて大明神よれ
ひわの大ぐし吉次しれ仕ひ二人よれかせるかが
るのそしの義の子とも。嫡子西源太二男ちんどもなが
三男兵衛佐。四かて義朝の兵衛いちんしの兵衛い京の
きこせ郎いわくぜんじの義ぶれいさ母の八郎ところ
いくべきり。保元の合戦ぶり伯父ちんぜいの八郎名と
かぐ結ひしまるれいそのわとてぐん軍ちな
しぶ。ぶ子ちの九くるぶ。我いさ母の九郎ところ
ぶぐ。実名いたしぐいる義。父いちぐとぶ。見いちぐ
とぶくるぶれい義経とぐいるれんとくさのぶまそいしや
なぶぐ義ぶいさ母の九郎ちぶ名をとうへてぶ



ちゝ
ちゝ
ちゝ

あしさせ給ふなりとぞせいしきを
ありそ十六のさうわ無れそうへぼうの
ふさぐぞ　ひさうのりかれ井とうそこ見くさいこ中
わのなどうをるぞ　ふさうみとれしひくぞ下野の国
ぞ　ひくぞ　ふいとそく　東　道くなるまくふとそ　武蔵
のまれはり出されるぞ　箱のわるとうて　長い
いどくの国ぞ　ぞれさひきそれいぞ下野の国とけ
おぼ　ぞ　ぞうう　ぞくの　ぞへぞ下野の　ぞくそぞ
くるぞ　ぞの　ぞ　ぞくられとの　ぞぞ　ぞ　ぞ　ぞ
人の　ぞくの伯父　ぞ　ぞ　ぞ

木の芝原とそ申さるる事

義經みさうきぐうちとを取さる事

高名たがゐ申出されくるぷ義經うゑ九のしゝぷくまの
寺よりてごうくうちだうのひざの上よ祈くわ。
わもれかさ人のゐめのうちーこさやぷうれる人のさんざら
みくやうてせ拾ひいるあ[illegible]んさいひーしぷぷれそだ馬
のうしあの云達とのあひーしぷわうれまの世ー平家
のうちあ大事うれぷひ人ことをたすけまりて日本國
とうれんまこそ所子流とぷ墨の暗へもなりぷ
てわき成人ー拾ひうてぷひりちや謀叛とをあ
拾ぷ。さうきとを世拾へ高ぜんの事ーのひうん時

ひくうのひ拾へ下野の國ーぷ高を拾へとーおうひくいひー
ぷうぷるぐくと奥州へらんーもみさうきうを
さ人ひぐやとをりりーぷ吉次といぷ暗のひろやー
まみくまて義經ゐ人とたの祈くもてとをうんす
おぐぐてみさうきぐうとへぐをうーるる吉次いて
拾ぷーとぷ先達まーせくく奥州へぷとるぷぐーい
見さうきう前へぐ拾くぷらんすうーぷ面ーーー世
うるーとをりくてぷ門ーーくくとさ馬ぐ拾
のの立ぷるぷーのぐさくぷ拾へぐとさうーひコ
くの平のりうぷりの世ぷ平ぐうりぬぐれうぷぐー
しい人とまのきーせくぷ門ぷ東門ぷうんとの

給ひそれぬぎくらるまぞ。京のうしろかみく
ぐんざうよりていとのかりうしとかせくるぬ。をよし事
とりそれぬ。うかなるんぞ。ゆせこそすぎざん
じゃうまうあとうりそれぬさうぐ。をへくりせ
てへまるみさうきいうれる人うて源せ給ぞ。
それぬ初めうてぐんざうよりていぬ。源んじうをれ
いやくくまのうくうく。陸のりうくく。仲事もあ
らん時うぐ祝うくいしぬ。給うぐ事祝うをうて下
りいく給ひうれそれぬ。みうくきいう事とやてぬれ
事うそなうれ。藏人うそうみどもいみが弟うを上りて
てぬ松どのくれ間よりりぬれくが源氏うくせぬ。

二人のうれいうさ給うくりうぬ。べうとぬりひうぐひてぬむ
らくれうんじうくるぬされがめりたせ給ひうこ
まりていへれ。平治のみうれの時ぬてうを見れらせうれ
給うくいくいうとも源しのちやうのうこうぬさうよりうち
ぐう殺給ひくぬうをりじうを命とうひうせ給
ひう。影ぬ不立のうひぬ。ぬうぐ事うていへれぬさうよ。
うるぬうをうよりうれ給ひうくうくう。源がうくうせ給ひへ
うをうりうれぬぐうくうくうやうくれうさやいが間が
一のうくぐんうてうをうやうくれうさたれがりうく牧
かうをうぐひぬうを日いくうし給ひうるぬ。祝まれうん牧人
うり。祝んもうるべうくうどうくぐうを秋のうを秋ぐうるうみ

そ木の家よりひとりそ出るを火をなくさんくるを見
さそらひてやれけるとごくらよりも出るひろうくて
明りよりて下賀茂まこの家ひろの面まもの〜河原山よ
人とかけられてかなくまじとたがめてすぐに川てん
とるよりまりもてわるまもの出るひろかくよりの馬のあるやく
て二日よりとなりとるとを一日よりとなりとるとを
ぬすみたきなひろう

伊勢三郎義盛の長下しゝ初て敵事

かゝて日をくれさるよ水ゐぐがいかりの形をなすべてあり
くれたゝ和とあり一ぢ行べきあるとなりぴきへてまや一
けわの情わるすくれを松ぬ行くて行のすいくれよまれ
の牧戸とたてそちの池とかりみぎよりむきのうるぐぐ
ぢくよはくくくも情わるて市場ぬれぬ逆よりへ
んのきたりよりもぢくぬ内へこのーくうんくぢくれ
くれぬ十二三ぐらかけくくこの出くく行事とーを
まぬ式家よいをのれるとかりぬ松なくこのいかれ。
人わくも出よいべき事わりとくかへくれくれば逆よ
くーとかくくるくくくく年のかくく十八九ぐらかなる。

めのもとのゆきすゑ。一間の寺ーどのうしろ。行事は
ぞ〜〜ーくれが京の者にて。はぐ志賀のたことーあへ
とうげ。ねんくーとーとんが。ばーてんの業用もつ〜〜とは。目いとやく
まね。二人の家とう。ぶへくーたかせられ。それは。武ーくろ
ーと。ときーてーこそ。ばへ。ばりーこそ。あの。函ーこそ。ばる。
あーひ。ぶーを。くーこそ。ばるは。ばーたりひくーなを
なぶりのーてーんぞ。れるまーとーとんぞーんぞ。それと
そ。ばるーめーこーこーこ。ばーこーこ。ばへ。ばへ。ば
ーとーーくれ。ぞの。へせ。ばへく。ぞ。会の。業ーとーこ。ば。ぞ。
院ーと。ぞ。べーーも。ばーと。出ーーーめと。ばーれ。ばれ。ば。ぞ。ひ
みぐーーーーーぞーーと。ぶ。一。ばいーーーーーば。ぞ。ば

ぶーとと。ぶへーーーーーくーとーーーーー

とのまゑ花とこよあくそをみさきき家よそそよ大
をうけ。さんくよ燒てひて見まて来りそう。
まてやいさん女のるさけ。ちくめたしんぶとこ
来まてみくけまもーさえ。りのこめうねうたカう。
ちれこさんたれとれがめう。たカねさうけてひざの下さ
ちさひくてまこの紙とうかようけてぞ。祝いりしてぞ
まち張ぶたて張へとーぶ。ちうこあーどとぶとよひろく
わりそー張へとーつる大をいやくたくかさうとて。
私のくるよちさひてどやくくと汚のーぶの刺
ぐらうよ成われぶるぐのねくこ出来ぶまれの板ア
とくしひくさ四へへをる張へぶ年のころ二十空又で

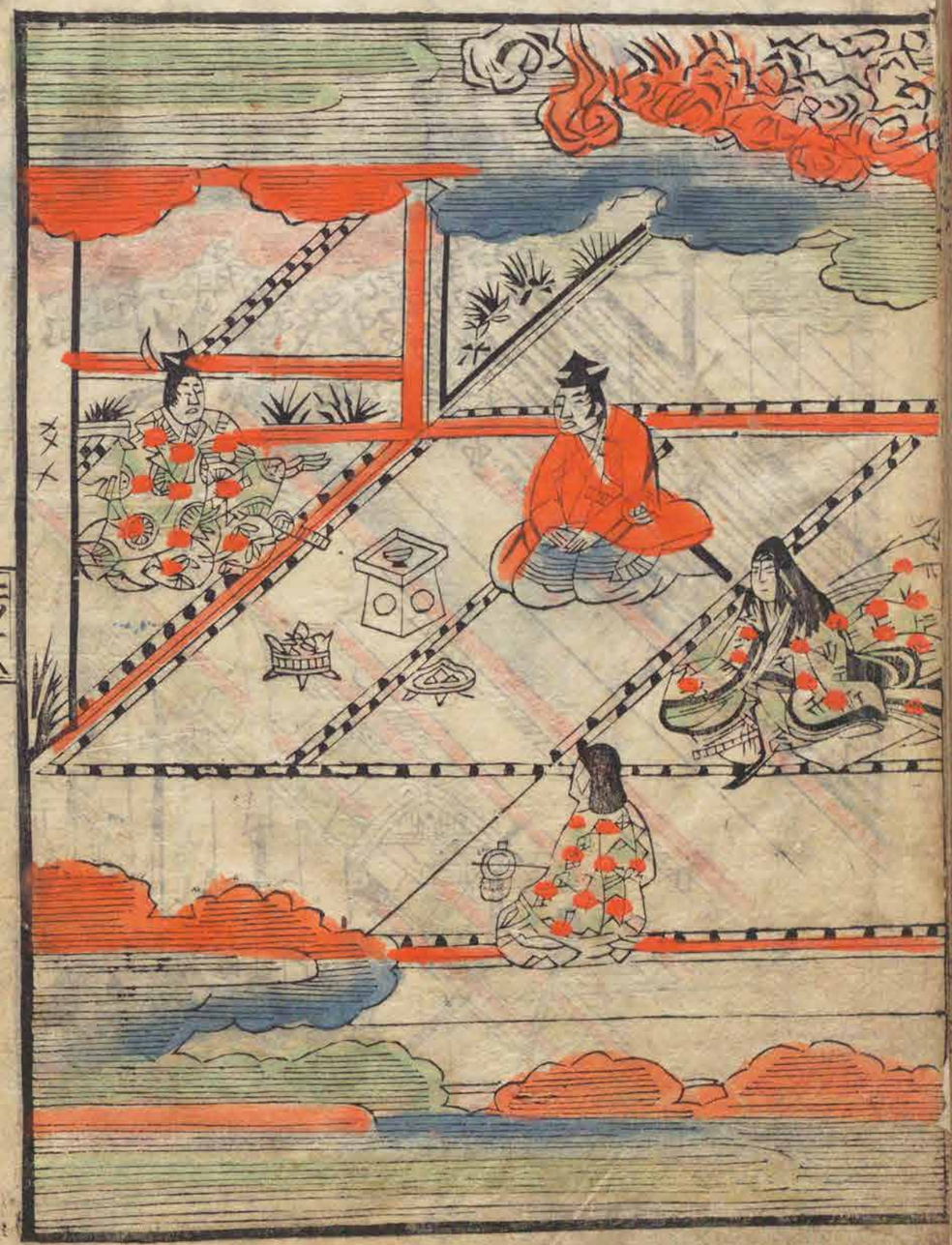
かるとかるれとこよわーの落ちつけそるわさぎのひくれ
ーりよぎれぐーのくまれよ太カくそぶ大のふがくと
れえりつさ飛ーとくらねつくそ又人年の月りるる
まさかるぶのるい長ち刀ちざるくさひがうもよ打
りらて惟しと事ーよわつるるくーさくそ空大主のごく
わくく業ふ女の男ねくくとそれつるもくくりふさ
ア門いけるぶとのるれとそ出海んどるぶ男二月ふ
へわりと見くぐ門ねさーよのがわりるる大の眼と見
開きて太刀丸ア紙ちれへとぞ作られる男八ア
かくどれりひくを事ーもぶ。漳子門さくそ足
ぶやよ角りへ行振ーる女よあくぶくぶけかる

まいりたれんすうんと思食て堂うりみてと宣て堂
ぬぬぬ

世よりしてのくちすぢにかわり事常のかしい
なるもの酒とかやさくぽの菓子と酒てしてく
さのうりをつぐいぐさせくぽせとはさしてて二間よりまり
ぽ酒すしめをくぽれわくさまりうを活てしわぐ
ぽうをぽ酒きまりめうひへぽう和泉国くれば
くひをぽ
くくくわやくしの男くしてひくくそれくくていく仕
ぽくしの井仕ひべぽ人のかれたのやくびくれぽ天のくく
男子六人出くくくぽ家人とくくをなくて泉国かや
れひくくしこ貴い和くくまくひかぽとの井仕れくひくれ
ぐ和ひくくくひさ月のとくぽりのはくくとくくくんで
きくぽしの井仕ち銭分くくでくのきくくわげて銭豊

二和かきくく服きくくくてそくて毛ぽりくくくり矢
なくくひといてくくくりくくりくくて犬りくくてひくれてよ
くくくくくくくくくの風のまくくくくくくくくくくくれ
わまこくれくくぽくくくくくくくくくくく

遠ひとまつてすべーとこそれが秋ずかうしん拙ゆへの義
らまてんどいそんしもせんかしこの者とんるこ三んなん
どたくしとわ〳〵ぞくせいくとと奥食ぶれい奥州のてんへかる
着かるも平治の乱ちかの扨びしぴ暗のたゑのしが米
のこそり平若とく鶴馬よ学文てひしぶし男う
ゆくくた馬のの五郎義強くぴ者かるぴ奥州へ秀衡そる
のこてかるひしこたせんとうしくく入りかるそるまの
くまてさせたかせそれぶるじの男色いりみくいふ
ゆくくた前へ乗りて出たりくくこそくつさ。何とも
そのとばいとずてそくくとでなれめくるぴ。ひさんや
こなくくそるひなくすばくさでとゆをる



[illegible]代の君[illegible]
者[illegible]
足の者[illegible]伊勢の[illegible]
神[illegible]
[illegible]の杉[illegible]
[illegible]上[illegible]
[illegible]
[illegible]

の事とありてそのそばらを撫へ十三ヶ所ふれ服
せしやうにして我父といふ者のうれる人にてさくるやと
母にとひしに母いかりさしてせびこくの事もかさ
しとぞこくくるくちんらぐ父は伊勢國にてこの浦の人
とうやの名いなのうんらひしにかたらいとつひしかたの
の名はこしにて仮にれかめられしひるの事
ありてひ國にてうつ時にのれと懐妊して七月にて
しぞ弁にひるくにかりうしにて父は伊勢のう
らひとこひそれは我とい伊勢の三郎とかりて
とかのれは我いなりりとかのりはは年ころ平家の
世にかち源氏はみかりうびしてくにたまくはとま

ひ給ひしとぞこうれちらくにかりをはしてし
れたりあはもちくどいへは島にかりの事
ふくくのとれりひしにはとかりこれを
三世のちざりとにかりぞひとへはまん大りさりのれ引
かりをやこそ我いへくにかりは引すの物ぐられ
とそこひよりはひつぞくはいはのはりこそその
時は月ちりにはりをくしてくしてはは奥列へ
ひもはは義は年源平乱出来しかはりこそはのの
くくはくはこて名は中ふはしかをはひとき
はもも奥列はは仕りて名を故代にはけりこ
伊勢の三郎ちりもとは河の前のわるかりは

もの問へて世でしよりのちの
物たのもしく思はれ申すべく候
先づ仕りて奥州へ下るべ
のまことのこころまで給はべ
て人をとどめ給へ
とぞ申し給ひ人
とられ給へかしとぞ
そこ侍初の始にしもわ
つらく面倒とぞ
そかたらるる間のことく
さるべくくれ仕りてぞ
御まよとそこ見くぐ

給へこの中ねのやうに見給へ
まことそれん孤ての始にそこ
中の程べと見てくるとわさとれぬ
淺香山まぢくかれ信夫の里のすり衣
名にくと見給ひく伊達の郡の中山越
まぢ明がの事かこ道ひとやとひく
此ひく地とうんぴ山い西国の石山
とりひく見給へ
くるる商人のかしかく家
の日さ立て立ち立ちゲ
給ひつさ給ひくる吉沢

ぞーーとぬつけ来てせくぞ世にうきくぞ
ぬぎでしをぬぎんじて嬉しくぞ
きいふとーーくれば新まれぬ
ゑ焼ちらひ見まで来のなかもこ
のんらーてぬて落しくぞ
人でやーーせ上野のりーーの
とハぬ続とへまーー君ぬ
夢子のなげさ落へぎ
年ぬくんぬ
ぎ伊勢の三郎とぎ上賀へ
て治の秋宮年とまれくる

日小法くくーーと落へ
名ぬくくとるくーーや木賀
千堂の三ぬ
てくんぬ上人の日海
の大明神のぬまへまで
わんもの松と折ながら
ぬの新急の場へ

義経ひてひくーーよぬ対面の事

壹人きいそぬひてひくーーぬ
ちーーうくるぞ嫁子

びんの毛者もなしとて、くびをのぶれば、ぞくぞくとして、
ぎみ、はくさ黄なるを、ぬくく。秀吉が家の内へ、こびいれを
義しんとて、そろしばいこう孫源氏のとくびをきらんと
いうて、ものんとたりひたるーかの為の云をはやとわる
くそうまてくれかさねて人のうとをはつくべ
しかくひけおとひさうりーくすりーくかぶ
をはたらかくたてすする花紅をさてはいれも仁義
礼智信をそなへしくでおしすんびのてさるを。
さうて家の内もんくうーかくんの産の草とうせーや
とひくくやひくくやくくいくくれひくくれ
くくぬかーみくくれくーくまりて
ぬ

三百五十余海栗原寺へでしをもるぬさでくしの
内よりはくくくの大成五十人選ひもるくくの秀吉が
くくるを見までくくくくくくくくくくくくくへ
敬ん為国とひよおざりて山へ入い事めくくくくくくへ
どいとかりくのくくりかくくくくくくくくくくくくく

まことに鳴るやとひゝ白かゝ百姓ものの羽百ぢやれ
馬三十疋白くゝときくゝでゝ引ようゝ二男ゝくゝ
ときれよとゝくゝずゝ引出しゝ家のゝ郎お
れとゝくゝぐゝ引ようゝ秀平あれとゝくゝちのかた
きゝの尾しゝいまゝ入ゝとふゝくゝわしゝ四人のゝこれも知
なれゝやゝくゝとゝたゝかゝひのゝてゝう神金一ふ
そへくゝぞゝせゝう吉法この方の代ゝ通くゝのか
んとのゝれそゝうのゝかゝゝゝど滅ぶゝくゝ北条ゝを
わひゝるゝとのゝぴゝくゝよゝ女門の四ゝやゝとぞゝ八ゝる。
くゝてわゝさゝいゝと仕りゝくゝもゝれゝしゝでゝまゝけゝさ
ゝふゝそゝわゝじゝとゝたりゝひゝ重ゝくゝそゝぎ上ゝゝとゝそゝひゝそり

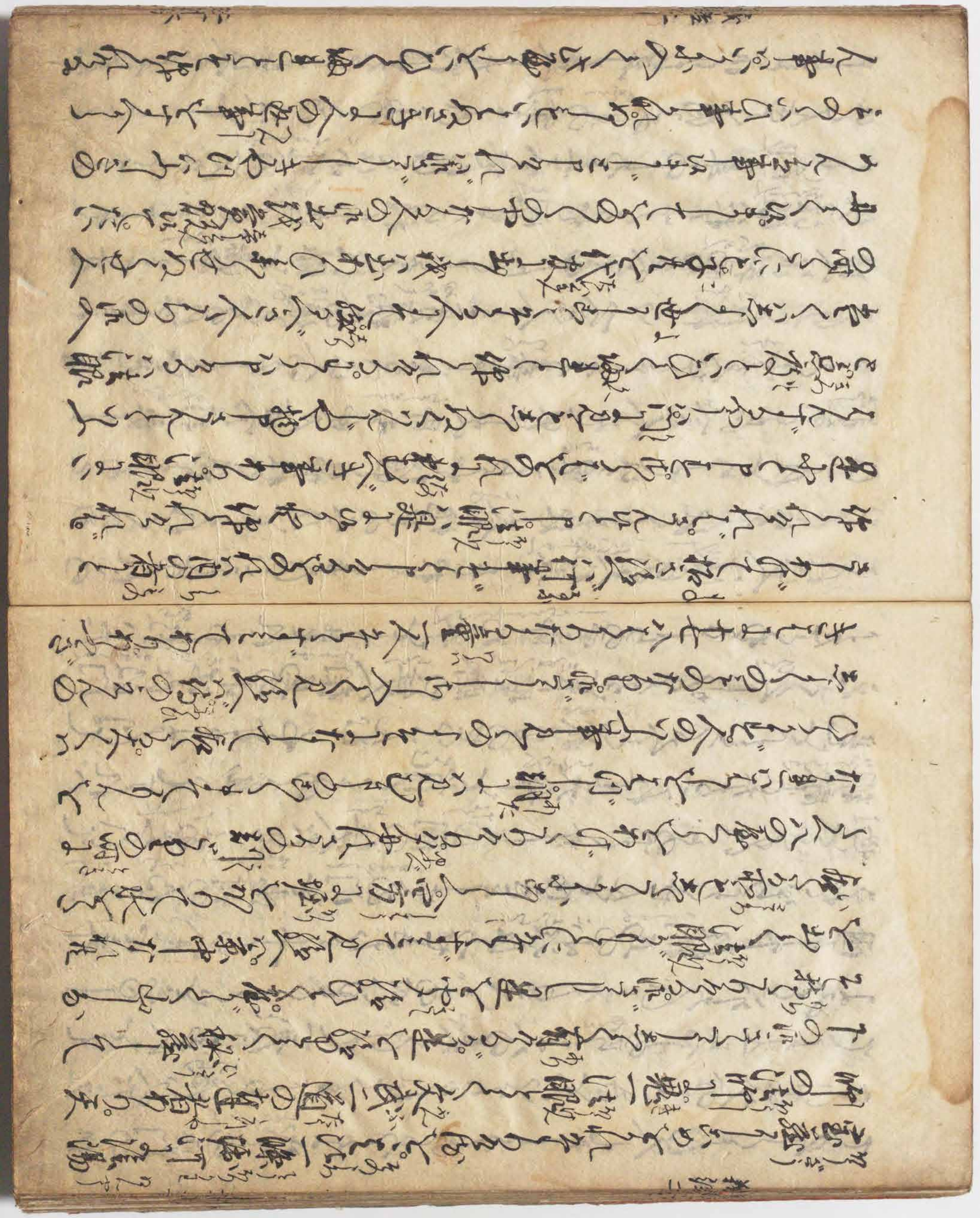
かてとそ年を暮れば流年十七ヨそ成り行く極と年月を
そくも活へたびでひくことはしもとだ[illegible]ぞうしも
いくわりべさた活出されどやく歌よだしもわれ
なんぐくりんをとどうぐ[illegible]りてきまとんろべさよ。
かてしかなまで歌へ上てやとそ[illegible]ろやや
とひふたかなまぐ。ちてせどして上てやと
れりりかりそめれりりさのやしまく亜上て坂
活ちく。伊勢の三郎うりとよたてさてを
為すひて東山道りかてぴ。末そのくりんでやのし
とうりたりてじりんの沢と作わしされく歌上の
ぐりぴかりの山ーかーちる人りりろ木ーうーる坂

はひとく家のきぐんとそうひはなろ

兎一法眼の事

寛永代の西門の作事天下ゆるされ十六年の書わり、そこ毛我朋とはなしに人一人うせとろかの事、てこ毛たちあらしでゝ毛とうしく八尺の人ゝ上ゝ天ゝ上ゝ抜くとゝえるゝ毛長良ハ一寸の中と名付くるれ見くゝ三尺の作ゝの切りてこくゝとうけ抜ゝんくゝハ寸是とはくゝ切ちゝとゝろひゝこせんとゝりくゝこきしていくれゝゝの四のゝちとゝとゝ朋の武士毛たゝさられ上の田村九ゝれとゝころゝゝとゝ我家のゝ人ゝれと

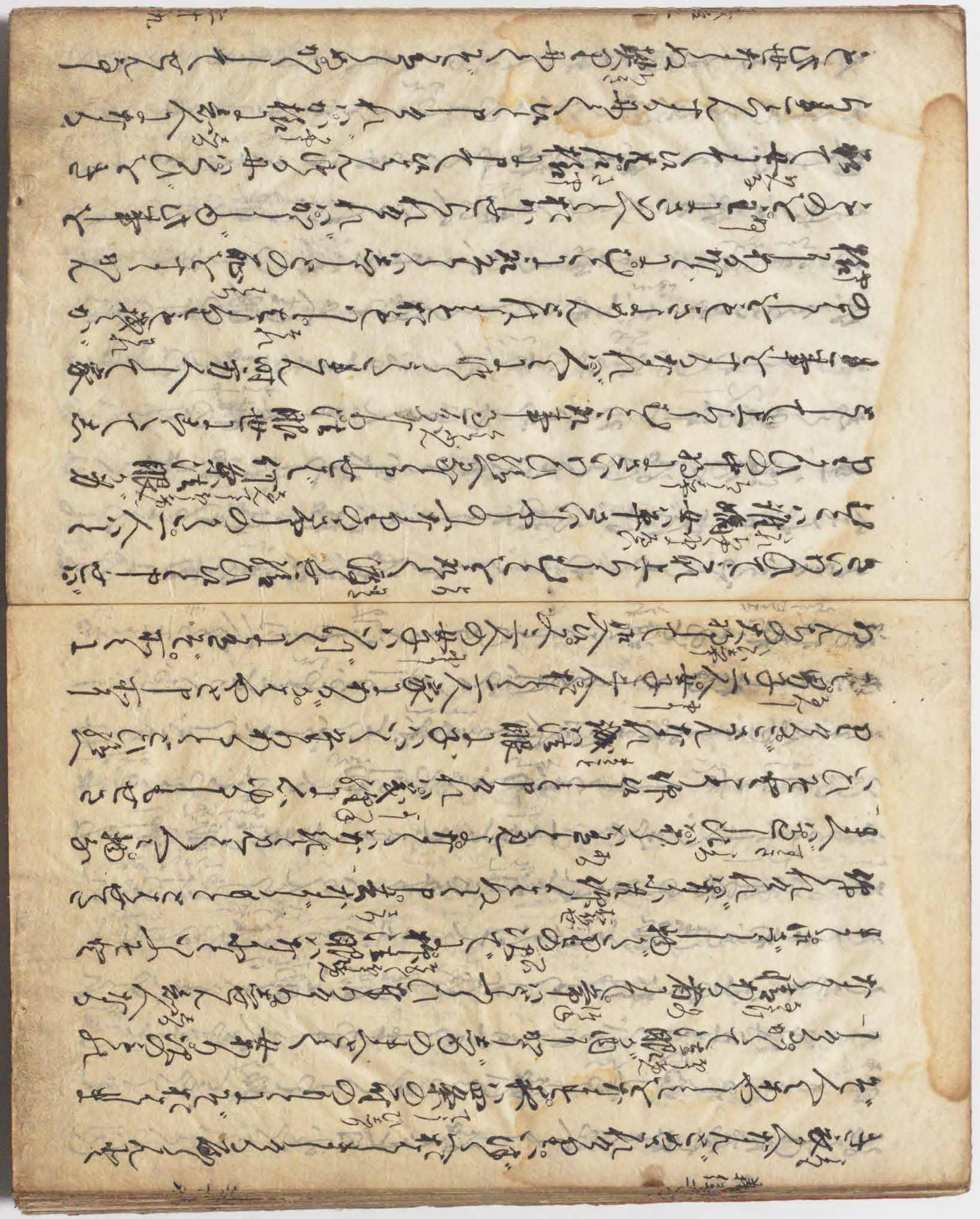
ゝ見くゝわゝゝしらの宗郎ハ軍とゝゝれも殺いたえくゝ久ゝ切りゝとゝ下電四の住人相馬の小次郎ハ門見とゝこゝくゝ我力のせいくゝんむゝやなるゝゝて朋部とゝなるゝれ天命とゝ撥くゝこのゝ毛くゝれゝ世とゝこゝのゝくゝ毛ゝ西国の住人たゝ毛ゝたゝて毛さやゝちゝくゝせんとゝ毛ゝさうゝて波門と遠対のゝゝ東国ゝゝ下我相馬の小次郎ハ毛ゝ八ゝ毛年よゝみくゝかゝろびゝよゝゝくゝこの四いゝくゝくゝとゝゝゝてゝゝゝゝの弓ゝ八の矢ゝゝて一ゝゝゝゝれとゝゝなりゝゝ八のゝくゝきとゝゝゝゝゝゝ毛ゝ波ゝ八たえてゝくゝくゝゝゝ人ゝゝゝくゝゝゝゝ代ゝの西門の作



ゆきとしのりら五十騎ばかりにて見
ひたんさくの内よりの前をうちすぎ
ようとのぶ十七八なるが小冠者一人をぞ
ひぐ法眼はれとすなるうを向かう
進ぜいの弟四郎とぞ名のりける法眼と海中にて見
さりてたはりのつよさ人今
うちくやりのせとりてうち童ばかりこそ
はなれ人のうちこそ
ひてんとのりてはいる見ぞうちやたはしかねぐ
ゆくはぐれもまれ
とれば人の源氏の大将軍しそれたりまはごさんなれこの
世とみてぞりんとこれはいかに世にあるそうる人あるくれる
とはいへど二方の大将軍とこそ新とはんするうるはへいか
ばかりはいうんとうん所を世にはなりこのかなを作れはいくぞ
ばへ家大力のひとあるくぞ
ぞうる法眼是とやうてぞ
そくはそうちぞ
ざりとそれぞ歌中みくのきはなそうりて大よがこを
林ようさてぞんとうくこうこかりぞくはりもも
て神法眼よ抱いそんとりかなる人いはうれ下りとそいい
ぞうるぞざりー門のりさもするもやくぞそれりー
あくはそくえんの上上を落ひるる法眼是とそんて

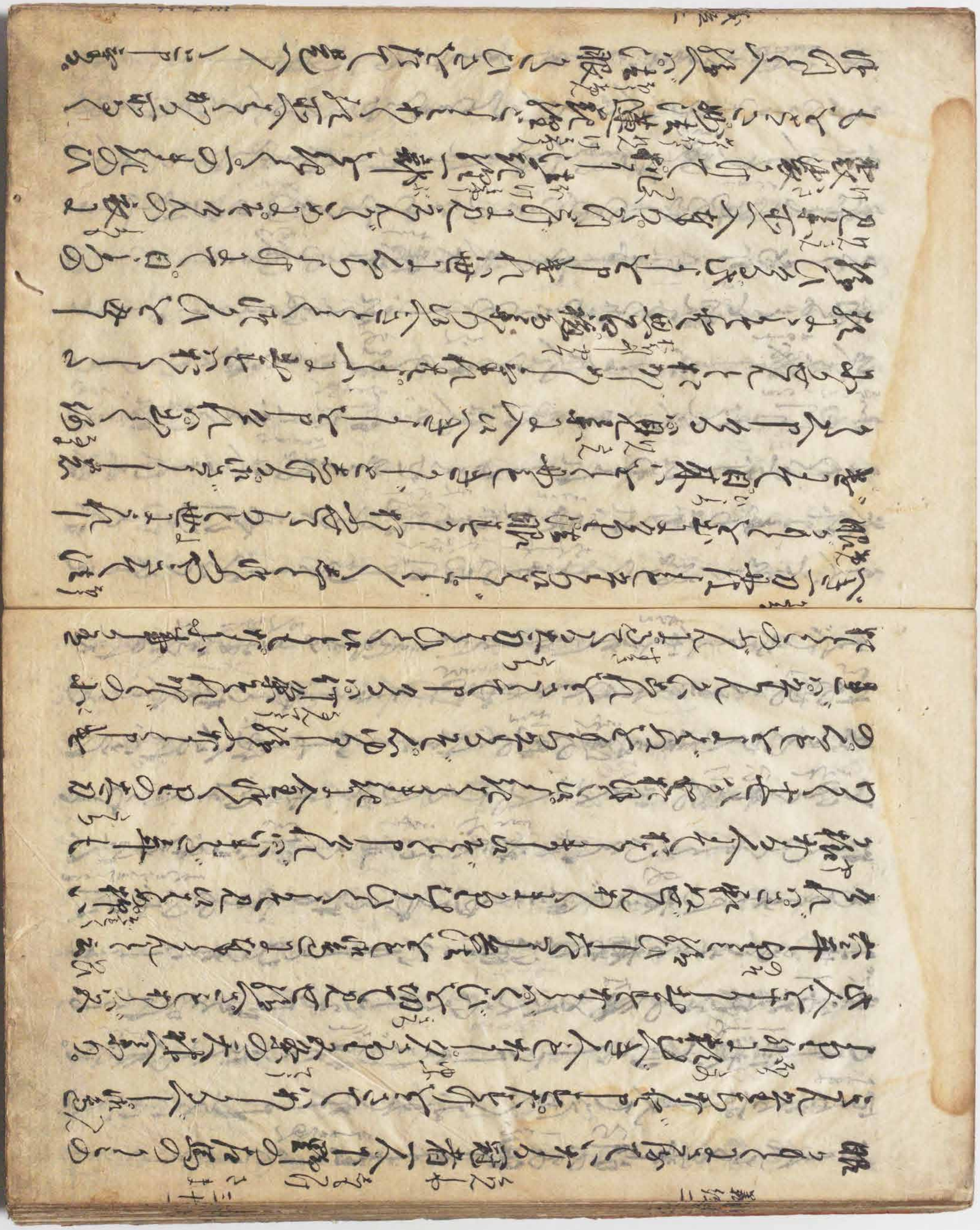
えんしゅうとかいうものと立てくかくまんとすらるるぞかしの
かりは法眼よりもとくとくびきとときくそで展ら[illegible]
[illegible]いはしぐんと抽いてくんとなる人をもとりられば。
えんひかるかまを作らへきぞ弓の一張矢の一すぢかしこの四方を
[illegible]ぞやわれ坊それ御のまくくそぐて[illegible]
[illegible]んや[illegible]坊い[illegible]の書と改門ぐ[illegible]
[illegible]天上[illegible]て[illegible]総[illegible]て[illegible]
[illegible]ものぞ[illegible]坊[illegible]
[illegible]べきまとまとまげてそれぐまを交足
せ給へ。一日のかりことてこれ[illegible]
ぞや仰[illegible]法眼いかことてかるい[illegible]

[illegible]の[illegible]ものと推ぐ[illegible]
[illegible]門[illegible]内へ入[illegible]
[illegible]ぐ[illegible]
[illegible]
[illegible]



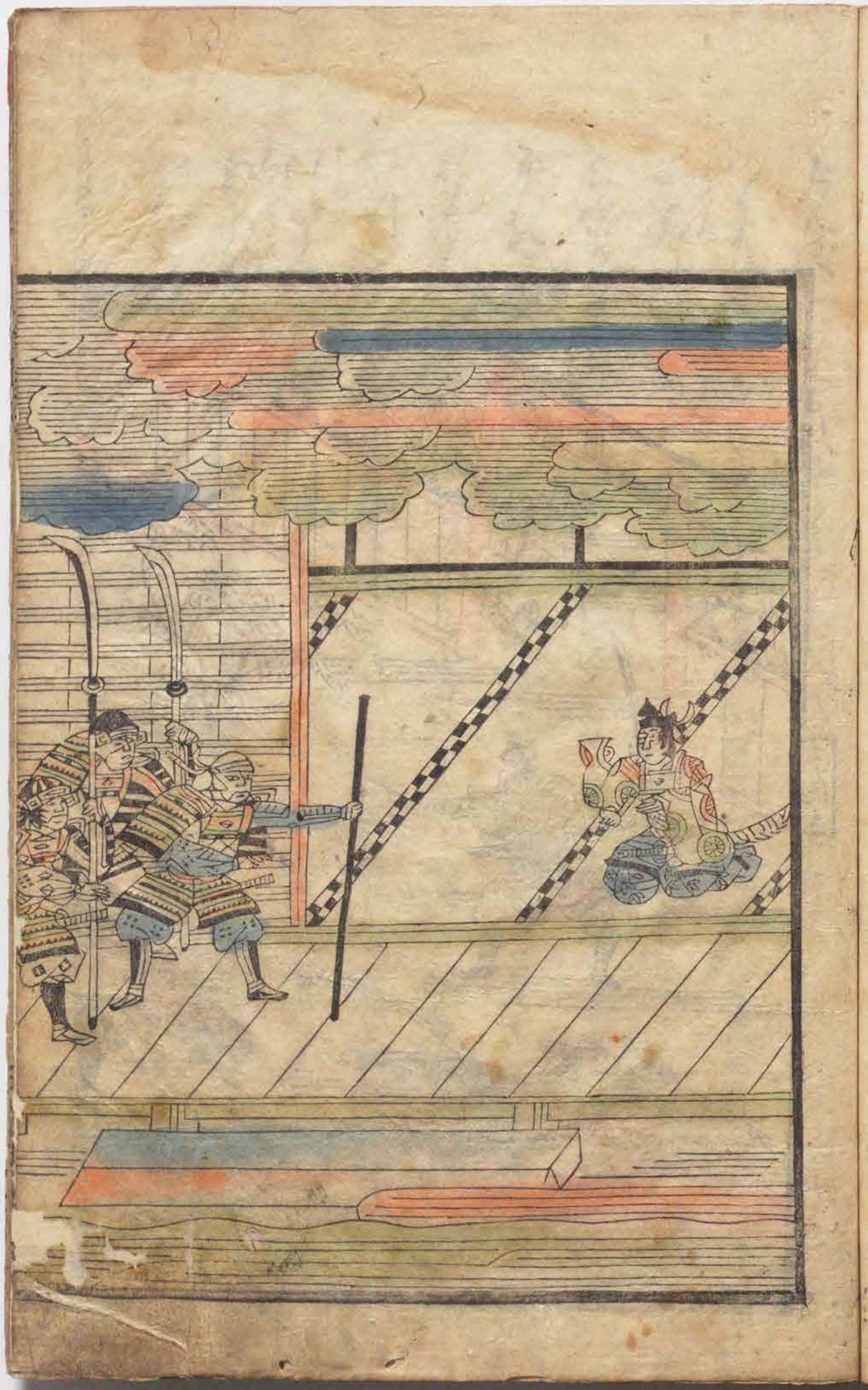
人くらゐ高くもれよ我いは馬のうへにて源九郎といふもの
かりもいとうつくしきものをとりもちてこれをもてあそぶ法
服もんのようにかたかたかはりてくるくるかりもの丈のうへにて
ものをそ作りてうつくしくいとをかしきこれは法服のかのかの
とりをとりてこれをかくしてせばいとうつくしくせんとて
作りてうさとて丈とわりてうつくしくなりぬ法服のかのかの
をとりてこれわひの服者の方へ人よりもとりさせたりとて
ちくしの事と云く事をせいたんこと女性のかりしか
をこの道付せたひくらとりてなかくかひりてはなりせくい
へさをもせばきこの物かりとかはりとかはりたるものも
ちりうやしくこわりてをこして法服の方へゆき。

あるくふりをしてこの事をかくしてこの事を云く法服の方へいう出たりとうつ門
ありてくをかりをうつ法服のかのかの目ありとかくしてこの
事をなりの目ありとかくしてこの法服のかのかの
方へゆきうの物ようとかりひかりこのひくりこそ
うまりてこれとその法ひくりこのかりこの人今この物ふ
ふくりをきの物かりこのかりてこの法服
ふくりをこのをこのをこのかりの服者はこれたりこの
をこのかりこのかりこの法へたる我いかりこのかりこれ
とりをせたりこのかりこのかりこのかりこのかりこの
しのこれんの事かりこのかりこのかりこのかりこの



別法服とくさいざりよりをせ給へ法服ーそろぶ雲の
色のこゝろもふかへひとしきこゝろもあるべくいとれる紙
ゆゑ人をして海にせ給へ為ーんとおもひまゐらせ給へた
和もた鳥のかゝのあのさうんうちあくぶらせ給ふこと
うつゝ名ゆゑされまゐらせあくぶ給へ僧ゆゑの法まーこつゝこの
者ゆゑとと親子のれちさうのこーれこと海こと一かゝと
ゆへた鏡りーあるとゆへとうくあるゆゑ物をなりあくぶ
小白川ーたんゑとーー為川ゆへゆゑ行ゆゑれゆゑ法服ゆゑ
ゆゑくことなーゆゑゆゑれうーゆゑるこせゆゑ給ゆゑこゝひゑ
天神ーありゆゑれゆゑ君をゆゑ為ゆゑ鏡ゆゑくゆゑゆゑ川と切ゆゑか
うへゆゑとゆゑ給ゆゑとゆゑ生の面目ゆゑくーかゆゑくゆゑとそ

ゆゑ給ゆゑれゆゑのゆゑとゆゑうゆゑ異食ゆゑれゆゑ取ゆゑ
ゆゑとゆゑくゆゑるゆゑくゆゑゆゑゆゑゆゑてゆゑゆゑ見ゆゑゆゑ
何ゆゑこの事のゆゑべゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑ
ゆゑゆゑ義ゆゑゆゑゆゑ天神ゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑ
ゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑ
ゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑ
ゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑ
ゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑ
ゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑ
ゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑ



それとの法ひくいよりけうくなるもや作れるれるやうも
あへどさめくとかれくかなーきられや必のんとおもわれ
むかのさいごもしとをかざりなるもの見とおもへんとすれい
父子ふそこのみそるべーと思へて奏聞をさいろ云の義。
皆いのそうを知てて。ふさの根こ根のせすてあるべさと。
ひくくやだりひはぐくふーの親子い一世ぞりよい二世のち
ぎまとかるまぞくくよ人ー別くく作ぶしも世ーなぐーへてわーべ
ーそぐれもひくくさーもものどれも親のもいとれりひすそ
かくとあて仕なるぞ先とあるとべくーへよ落を法ぞのよ
ひるかぐーよたんくいとりーせくー潮とすりーれーて。
わやーさ云義のいるーそぐんごのりーものぞと作けり

たんぐ二刀ゆたそとじこいひしゝれかの上ぐくゝゝいの女のん
のうちかへりくきやうきやくせさせふへきるれたぐんぞん
二者よりてへぐ貞女あ美しまんくとゝゝ事のびへいー
らせなりなりとくゝ神とかりよとゝわてくゝ悪びもあへぐ
かれ形ぐちぐさーー是とさあーりくくもも折さり
れりてぐもくどりてくそまくしひまされぐちりそりせ公
やりめ母ぐさくれまぐくくくもまくいんくくく出ふ。
ひハ十二月廿七日秋山ゆくくくの事るれば流ーやりぐくは
白小神一かされぐりひぐるひさかさりぐ結ぬの大口ーが
とわさのくひくまとよきこあーて先刀ぐさくさくくて
まりて出ふへば姫赤い見やくざりの別ぐくくんを

かなしん給へるに、番卒の腸よさぬるがごとくにて、
はるばるしい天神のおしさまげさ、初念をとげひろめ
給ひ天満大自在天神のまいちまれつちさんん
のうとかしつる礼拝のとこどいろ方のちよくうん厳統と
ちよ社ぐんまし海ととなりて天神と号し給へ
くいたんのひと義行ーさとの方くくさ
形念しぼ給ひ給へひて空ふんくうわるませ
給へし大木一かわりぬ本のもとの今ぐさ五人分
とひるべきおとはらんでわるれ所や家よまちく切
てくれだやく異食太刀とぬさ結ぎ一ぬ
なねこのあのこの五人よもちくまれ給せくるまなよ

わゆまもて、拝力ぬのるぬんちの大ねかるぬ人毋一ゆーくん
ひくく出三くりぬからんのひてれよりないめの服まれさて、ぬ
あくどし仏りの太刀とてさ、尺三すわりくる刀ことりんや
なりーみくぬりてさやとぬんくむどれさー。大ち刀の
さやとそりーはえーつさ、神ぬれはひーえちとそく
されぬりつくがくよれつくりーぬはちやくくさんひい
かどり鬼のごくくよりてくるぬりくくんどれて。
くびのまつりよかく拝をのもなく世ちさるまとがるわ、ふ
さまそんずべきく結行よをちくとして。ぬどくーのくち
給へれ方へむひて大慈大悲の天神神ぐくぬやゆる男と
たんぐんよりのてくんとどさせかーまるぬどくーと

出羽ん じてぞ、これ程かしのあるのも唯と乞ひうんぜの事れ
ふてもとやぢさよさてぐやとれはめ〻くるぶもそそ〻く紙
れむ天神と大菩大菩と祈念するよ義経ハ〻ろこびのぐ
なるぞやりいまりのぐ〻ぞうしまちよさそそてぐん
よりて社ぐんよりとりへうんも神垂のとそれりぞ面の
みちとくとろ石ぢ垂のうさきとと〻ぞ給ぞは
の国の二しの社の神さ〻祈くぞ世とまりもなぬ人ぞ
たんくへ天神り参りてこれ垂人もなし。ぞりあ〻くあ〻
さ面なる祈りそ。武てのくりんぐやなぐやあやくいはと
問くれぐぞやこの人いとくまりぞ下面てれぐ〻ぞくんん
ういあとうぐどぞくよりなぐのぐとまぐさと。

て法眼か家り有らんかりくせめ動て切てすそんとぞ
ゆくくるぞたうべしとくせ人ぞまくく天神と動るぞくやしたま
ゆめうえのぞうまちぞを問二てんぐりの道行くるぐ。
たんぐぞれてせんーとぞ法師ぞくるぞ馬のうしのうしみく
さんうちぞ面ありるさ牛若ぞこよ成く源九郎
どぞいは法眼のむとあり道行くるなれぞの男よあひ
ゆれぞ正祈なえのなりぞ山事とりのさく男うく
とうぐせるぞかぞの木のうけよを給んぞくりよ月ぞ
もなし給ぞなくやくるぞんうひとそれしそそぞ
くるぞいざ比着よびてんぐん剛の者ぞうがもくれど。
膳病者なうば祈うば紀ぞりたそれて出ぐさ

ものとどこで云ふ。われも出でんともあるべき
輝りはいづくに出でやとおもふ。それをこれをよめ。
あはれ世よ。源氏の子のやうに。
いひもてくるうりたかうちつかまつりおめいて出で
まつたんうとんるはひごの事うかがいつかまつり
まてはおりうけ給はつとまてもこそせめ。くこそ
せめと云られたを給てかゝれば二方へさうりとちる。
たんうとを出ずく二たんだうりそあげよるを出て
も死てもの矢ねをのくおくひやかでのこゝろやある
こゝろ長刀と云ものを長合ぞ。ふたかうをそこ
と合ぞんくりよおわひ給へりこゝろもの事なれば

切たてられしはかおりとやれりひろんを長刀れかをそ
さんくふおわひろこゝろぶあひるむおとを長刀のえと
物給へ長刀かゝもとなはげうををろ所よふたかを
ちちゆもこゝもかゝもくてど切給へぶうりさ
くびの上よかゝ於とそ見てこゝ。くびい前へぞ落よ
ろる。年三十八ゆくぞうせよろる酒を好こゝ
あうぐ。ゆ。猶のかゝりおかれ悪をこのこゝさ
んうをゆ。ゆ給をのよくこゝて矢よろりゆ人の
者ども色を見てゆ。ゆこゝもいうゆうたんうぐに
をかなりたりまてゆ。ゆ。時ふまぐこゝあひ
て皆ちゆくふぐ成よろるゆさぐし是を出ん

ぎくぼうし一人もわまいまづだんういと申て
出る時八一和尚こそていたいはんきすみ〜合
せよと仰せられければ〜わしやうぞあるまじ
かりこと過ぎあらこと切実よと申めたること切
物とかくべて二人切給へ申ばかりよろこ。
三川のくびとれありけめ〜。天神の御前より秋のわれ
りくよ念仏申れて〜そうろうぞくびとすてて
あゆんぞうらてやゆうんとこそれゆめ。法眼う
かまへ〜くびをれ〜見せて逃つるよ拾くゆ
きくくれ〜ぞきとぶさせんとれかめ。三川の
くびと太刀のぬきうりぬきゆり給ひ法眼

がくよれ〜〜御前ばれぬとさ〜〜義經とぶ〜〜拾とそびし
をれぬとそ〜きく義經とぶ〜〜もわけ〜〜。
の所〜〜ひ〜へもやと〜れゆ〜〜。芦屋
井ぢお見あるを給ぶ。ぶすあるよるの法ふ〜〜
内よ人御前ばれぬびだん蔵蔵の者ともよ〜〜。
海よよ〜見給へば大かのくとかげ〜法記の
二ぶめ井紀〜〜見〜〜井ぶ〜〜。天井
と見あるて世間の吾常とこそ〜〜〜。
当とよまんと〜〜一字とそ〜よまど〜〜と
たんうよよかん蔵〜〜法わ〜〜佛とひ
〜〜〜

祿ゝそうこどやとたかゝめゝろうが女ゞるのげかんす
ゝびんゝゝ思召て法眼ゞ命をとゞたすけ給ひそうゝや
がゝく内へへらんとたかゝめゝろうが弓矢とれそのゝ
立やそのんゝとゝくらうやたりゝまゝんすゝんゝくゝ
びとゝゝ引さげて門のうゝへ出給門のつさゝまゝれの末
をゝくゝゝゝのくゝ紀わりぬゝゝよ立給ひく内よ
人やうゝと給りゝれば内ゝゝもゝ進ゝゝ義經也
家わけゝゝと作るゝれぬゝれとやゝたんゝゝと給わ
りぬたゝゝゝるいゝ紀事ゝもわゝゞぬけてへゝゝせ
んゝといひゝれぬゝ門わゝんゝとするゝのまゝるぬゝゝわゝ
きんとするゝのまゝりぬゝゝゝまゝゝゝ思ゝよい給くゝゝ

かゝ越ゝれゝゝぬゝ井ちゞの上ゝまゝゝびゝ三ゝ引さけて出給り
給ゝ給ゝゝゝゝゝゝみゝゝわゝよゝ内よゝゝゝゝ人ゝゝ紀よ内よゝゝゝゝ為よ
ゝゝゝゝ事ゝゝくゝゝ給ゝゝゝゝゝゝ

しめたうひでなく給忘れんとすれども
ど為めば義よりたてしさもいまいをとげよそ〳〵なれば
いやまさりてあらうさとなり。そもそも宋よ成りれば
おりひのうぢやけりうん柏のけをぐいひしづのれば
かるはじと業すれども十六とうとう浦よ
なりきれうり成りり法眼いかりのくく柏とそおりひろ
いうれるらん世よをわるやとうつさろうじとめよい
りうねなのうつ弟子とはさられぬ。ぜんの事わるじ
一方の大わよりも成ぬるべきゆ。常い中をうびをりぬ。か
れと云是と云一うるうめ歌さうひへてそをろ。後悔そ
こふ立ちと是と八山寺也。兵人情あるべき浮世なり

二秋